

平成26年度 学校評価 総括評価表

徳島県立穴吹高等学校

○ 評価基準 A:十分に達成できた / B:概ね達成できた / C:十分には達成できなかった / D:全く達成できなかった

重点目標	評価指標と活動計画	評価	総合評価	次年度への課題・改善策	
1 主体的・積極的に学習に取り組む姿勢を育成できるような授業の工夫をする。	評価指標	評価指標による達成度 * ()内は昨年度 1 教員(3人以上)の授業見学率 [前期] 93% (79%) [後期] 87% (69%) 年間平均 90% (74%)	B (所見) 評価指標については、目標を下回る結果となった。活動計画に関しては計画通りに実施できた。 達成度については、昨年度よりも向上した。ただ、学年によって生徒の授業に取り組む姿勢に差がある。興味をもてる授業を教師が実践することが、生徒の授業への積極性につながると考えられるので、授業方法や内容の改善をさらにすすめていく必要がある。	○ 授業見学の回数は参観シートの提出枚数で計算しているため、参観シートの確実な提出を呼びかける。また、公開授業週間についても学校行事等の日程を考え、期間についても検討する。 ○ 返却された参観シートを授業実践力向上につなげてもらえるよう職員朝会等で呼びかける。 ○ 生徒自らが学び取ろうとする姿勢を育てる授業づくりのために、各教科での教科会を定期的に行う。	
	1 他の教員の授業を前・後期、各3人以上の授業を見学する。教員(3人以上)の授業見学率100%を目指す。	2 生徒・教員による授業への評価 ① 生徒への授業アンケートで「授業にまじめに、また積極的に取り組んでいますか」の質問に対し「大変当てはまる」「当てはまる」と回答する生徒の割合が全学年70%以上を目指す。 ② 教員への授業アンケートで「自ら学び取ろうとする姿勢を育てる授業の展開ができたか」の質問に対し「そう思う」「だいたいそう思う」と回答する教員の割合が70%以上を目指す。			2 ① [1学年] 73.7% (57.9%) [2学年] 59.5% (70.9%) [3学年] 70.9% (74.7%) 生徒全体 68% (67.8%) ② 「そう思う」7.7% (7.7%) 「だいたいそう思う」57.7% (53.8%) 教員全体 65.4% (61.5%)
	活動計画	活動計画の実施状況			
	1 前期・後期に各1週間すべての授業を公開し、他の教員の授業を参観し、点検することにより、自らの授業力の向上やスキルアップを図る。また参観される側も、参観シートで指摘を受けることにより授業実践力の向上を図る。	1 5月13日～16日と10月20日～24日の各一週間を公開授業週間とし、すべての授業を公開。3人以上の教員の授業見学を目標とし、見学後には参観シートへ記入した。参観シートには「参考になった点・自分の授業で生かせる点」や「この授業で注意・改善した方がいい点」を書く欄を設け、参観する側もされる側も授業実践力を向上できるようにした。参観シートは後日、参観された側へ返却した。			
2 生徒・教員へ授業についてのアンケートをとる。公開授業での他の教員の授業手法や、アンケートでの指摘等を取り入れ授業力向上を図る。	2 12月中旬に生徒と教員へ授業アンケートを実施した。公開授業週間の参観シートは各教員に返却し公表したが、その活用法は各個人に任せるにとどまっている。				
2 将来への目標を考えさせることを通して、学習意欲の向上と基礎学力の伸長を図り、就職・進学の目標を達成する。	評価指標	評価指標による達成度 * 受験率(合格率)	B (所見) 活動計画の実施状況については、概ね計画どおりに実施することができた。しかし、評価指標の達成度に関しては、検定試験の受験率がほとんどの検定において目標値に届かなかった。他の指標についても、昨年同様学年による差が大きく、全体としての達成度は低調であった。	○ 進学や就職において、検定や資格がどのように評価されているかについて、自分で調べさせることにより、検定受験や資格取得への意欲を高める。 ○ 来年度も国語の授業で事前指導を実施し、漢字検定合格と基礎学力の定着をめざす。 ○ 家庭学習の定着に向けて、家庭学習調査を定期考査前ごとに活用し、来年度につなげる。 ○ 読書会だけでなく、新着図書案内の発行頻度を上げたり、多くの生徒に図書のリクエストを募ることで読書活動を啓発する。 ○ 1・2年生に進路資料室の使い方を指導し、進路を考えるきっかけとなるよう働きかける。	
	1 学習意欲向上のため各種資格試験・検定試験の受検を奨励し、各検定において全校生徒の20%以上の受検率を目指す。	1 数検受験者 7.9% (22.2%) ・保育技術検定受験者 13.2% (90.0%) ・ビジネス文書検定受験者 32.2% (41.1%) ・漢検受験者 10.6% (50.0%) ・英検受験者 5.3% (41.7%)			
	2 基礎学力養成のため校内漢字テストを実施し、事前指導を充実させることで、優秀者の割合を各学年において15%以上を目指す。	2 年間8回のテストにおける優秀者の割合 1年生 59.5% 2年生 30.5% 3年生 69.3%			
	3 学習時間の定着を図るため家庭学習を促し、特に定期考査中、各学年において一人あたりの1日平均学習時間2時間以上を目指す。	3 一人あたりの1日平均学習時間 1年生 2.4時間 2年生 1.9時間 3年生 2.9時間			
	4 学力向上を図るため読書活動を推進し、一人あたりの年間図書貸し出し数4.5冊以上を目指す。	4 一人あたりの年間貸出冊数 4.4冊 一人あたりの1ヶ月図書館利用回数 1.7回			
	5 将来の目標を立て実現するために、進路資料室の利用・オープンキャンパス・職場体験への参加を促し、全校生徒の20%以上の利用と参加を目指す。	5 「よく」及び「ときどき」利用した者の割合は全校生徒の26.9% 1年生 0.03% 2年生 13.2%			
	活動計画	活動計画の実施状況			
	1 教科担任や担任が積極的に受検を呼びかけ、取得すれば履歴書や調査書にも記入できることを低学年から知らせていく。	1 各HRや授業で全体に呼びかけるだけでなく、個人的な呼びかけも行った。また、資格や検定の重要性について、HRで指導した。			
	2 実施日に向けて国語科の授業で事前対策を実施し、また再テストなどの事後指導を学校全体で継続して行う。	2 国語科と担当が協力して事前指導を実施した。また事後指導として、全学年同じ日に学習日を設けた。			
	3 考査期間中の6日間、家庭学習調査を実施することで、生活の見直しや学習の偏りなどを担任が声かけする。	3 家庭学習時間を記入させることで、生徒の学習状況を担任が把握できた。また面談の際に学習時間記入用紙をもとに話をし、勉強不足の事実を保護者にも伝えられた。			
4 新着図書・推薦案内等の情報発信を増やし、放課後読書会を定期的に行うことで、生徒が図書館を訪れる機会を設ける。	4 校内読書会を1回、放課後読書会を2回実施した。図書委員による広報活動についても実施できた。				
5 1年次より、ホームルーム活動や総合学習の時間を利用し、資料室の活用方法、オープンキャンパス・進路ガイダンス情報を知らせる。	5 2・3年生の利用者が昨年度よりやや減った。スマートフォンの普及により生徒が自ら情報を調べやすいこともあるが、資料室の活用方法を知らせる時期が遅かった。				
3 1 基本的な生活習慣の確立を図るために、遅刻指導、頭髪・服装指導に重点を置く。また学校や社会のルールを守り正しい行動がとれる生徒を育成する。	評価指標	評価指標による達成度	B (所見) 頭髪再指導の人数は延べ29名と、昨年度より約半減し、改善した。昨年度より始めた終日正装を実施した効果と思われる。遅刻者数は昨年度より低く抑えられ、目標も達成できた。 授業開始後に教室外にいる生徒や学校周辺での問題行動は目立たなくなった。特別指導の数も昨年度より減少した。 「学校いじめ防止基本方針」に基づき、年度当初の計画通りいじめ等の未然防止のための活動を実施することができた。また、生徒に対する「学校生活アンケート」からも特に問題となる内容もなかった。	○ 頭髪の再指導者数は年々減少している。さらに指導を継続していきたい。また、今後も終日正装を徹底していきたい。 ○ 遅刻者数は、設定目標を達成できた。次年度さらに減少するよう、継続的な指導を実施していきたい。特に、10月・11月の遅刻者数が多いため、この時期の遅刻者を減少させたい。 ○ 特別指導を受ける生徒の数は昨年度より減少した。引き続き、巡視による問題行動の未然防止に努めたい。 ○ いじめ等の未然防止のための活動は今後も計画的・継続的に実施していきたい。	
	1 ① 毎月行う頭髪・服装指導の頭髪再指導者数が1ヶ月平均5名以下を目指す。	1 ① 頭髪の再指導者数は1年18名、2年2名、3年9名、延べ29名だった。1か月平均にすると、3.2名(1.3%)で、目標達成することができた。			
	② 1年間を通した1日平均の遅刻者数が5名以下を目指す。	② 全校生徒に対する遅刻者数の割合 平成24年度2.1%(1日平均5.4名) 平成25年度1.9%(1日平均5.0名) 平成26年度1.8%(1日平均4.3名)			
	③ 校内巡視・校外巡視が問題行動の未然防止につながり、特別指導を受ける生徒の減少を目指す。	③ 校内巡視は、全職員が交代で毎日実施した。授業中巡視は54日実施した。校外巡視は午前中授業の日を中心に、合計69日実施した。			
	2 いじめ等の未然防止のためのホームルーム活動・職員研修会・学校行事等を10回以上実施する。	2 「学校生活に関するアンケート」2回、ホームルーム活動1回、職員研修2回、部活動生集会4回、生徒会によるいじめ未然防止のための啓発運動10回、合計19回実施した。			
	活動計画	活動計画の実施状況			
1 ① 毎月の頭髪・服装指導以外にも、随時気になる生徒を指導する。	① 毎月1回、合計9回実施した。学年別に全教員で取り組んだ。違反生徒は、後日学年主任、生徒課長が中心となり、改善が見られるまで再指導した。				
② 1週間に2回以上遅刻した生徒をその次の週に個別に指導する。	② 週2回以上遅刻した生徒に対しては、その次の週に各学年の担当教員を中心に、特別に遅刻指導をした。				
③ 計画的、継続的に校内巡視・校外巡視を行うとともに、気になる場合には随時巡視を強化する。	③ 校内巡視は、基本的に毎日全教職員が交代で実施した。校舎内外の死角になりそうな場所を中心に巡視した。校外巡視は、午前中で放課となる日を中心に、JR穴吹駅周辺、脇町の量販店周辺などを見て回った。				
2 いじめ等の防止のための年間計画に沿った活動を実施する。	2 「学校いじめ防止基本方針」に基づき、年間計画に沿った活動を実施した。				

重点目標	評価指標と活動計画	評価	総合評価	次年度への課題・改善策
4	1 月1回アースデー(環境を考える日)を設け、ゴミの分別とポイ捨て禁止、節電・節水呼びかける。	評価指標による達成度 1①<アンケートの結果> 上段：H26年度の5月と1月の比較 下段：年度平均の比較 (H24→H25→H26) ①学校でゴミを拾った。 39%→46% (43%→39%→41%) ②自分のゴミはゴミ箱へ。 86%→84% (83%→76%→84%) ③ゴミの分別をした。 86%→84% (84%→77%→84%) ④節電・節水をした。 84%→81% (81%→76%→82%)	総合評価 B (所見) エコキャップ回収活動が定着し、特に家庭の協力が大きな力となってきた。美化意識が育ち、一部の生徒を除いてほとんどの生徒がきちんとゴミの処理ができています。節電・節水については生徒数減少にもかかわらず達成できていない。	○ 節電に関して、移動教室の際の消灯が徹底できなかったこともあるので、校内にポスターを貼るなどして注意喚起をはかる。 ○ 美化意識の向上により、教室だけでなく、廊下や階段のゴミを気にする生徒も出てきたので、ロッカー上にゴミを置かないよう美化委員を中心に呼びかけを行う。
	2 エコキャップの回収や清掃活動を通し、環境に対する行動力を養う。	2②<電気水道使用量> 電気：4～12月の電気使用131,456kw 前年度4～12月 130,212kw 1,244kw増 前年度より1.0%増 水道：4～11月の水道使用2,517㎡ 前年度4～11月 2,428㎡ 89㎡増 前年度より3.7%増		
	2 エコキャップの回収個数を前年度より5%増を目指す。	2 <エコキャップ個数> 4～1月の生徒一人あたりの個数311個 総数では70,000個 (前年度 91個 総数 21,832個) 個数 220個増 242%増 総数48,168個増 221%増 目標の5%増を大幅に超えた。		
	活動計画 1① アースデーの朝SHRで美化委員が、ポイ捨て禁止やゴミの分別、節電・節水呼びかける。また、15分いっぱい清掃するよう、ポスターを製作し掲示する。 ② 月ごとの電気・水道の使用状況をISOコーナーに掲示するとともにアースデーに発表し、省エネ呼びかける。 2 家庭や地域に呼びかけ、エコキャップの回収を行う。	活動計画の実施状況 1① アースデーは4月より1月までで8回実施した。(昨年度は6回)美化委員は、朝のSHRで分別やエコを呼びかけ、昼休みに教室のエコキャップを回収し数を数え、帰りのSHRで行ったアースデーアンケートを集計した。 ② 予定通り実施できた。 2 教室以外の場所のエコキャップ個数調べは、JRC部員が行った。年間随時、家庭からの回収を受けつけた。4～1月の総数70,000個のうち、家庭からは55,977個。		
5	1 生徒会活動、学校行事を通して、自主的、実践的な態度を育てる。	評価指標による達成度 1① 各部が校内外の場所を決定し、清掃活動を行う。 ② 華の丘祭などの学校行事における生徒の満足度95%以上を目指す。 ③ 生徒会役員があいさつ運動を毎週月・金曜日に実施する。	総合評価 B (所見) 学校行事については、満足できているというアンケート結果が出ている。さらに満足度が高まるように工夫したい。部活動においては活動内容の充実や良い成績を残す部が増加しているが、全体的に部員数が減少している。部員数が増加し、良い成績を残す部が増えるように工夫したい。	○ 各部の清掃活動について、重点的にしてほしい場所や時期を指定する。 ○ 学校行事により多くの生徒がより多くの機会に参加できるよう、実施方法の工夫を考える。 ○ 部活動生集会をさらに工夫する。様々な顧問の先生から話をしてもらい、各部の活動の連携がより密になるようにしたい。 ○ 積極的に部活動を行っていることが就職や進学に直接的に好影響があることを伝える機会を増やす。
	2 部活動のより一層の活性化を図る。	2① 12月時点での入部率は69%あった。 ② 集会を4、5、8、1月の4回実施できた。		
	活動計画 1① 生徒会、部活動を中心に、校内外の清掃活動を行い積極的に環境美化活動に取り組む。 ② 華の丘祭が穴高生にとって一大イベントであることを理解させ、積極的参加を促し、成功への意識の高揚を図り、生徒会ならびに各HRの生徒自身が主体的に企画、運営していけるよう適切な指導をおこなう。 ③ 生徒会役員が積極的にあいさつを行うことで、学校全体であいさつからコミュニケーションを図っていく習慣を身につける。	活動計画の実施状況 1① 生徒会・部活動を中心に、日頃の清掃活動で清掃できない場所を清掃した。 ② 生徒会役員を中心に夏休みの前から実施案を考え計画してきた。また華の丘祭実行委員を募集し、生徒会役員のサポートをお願いし、さらなる内容の充実と生徒への積極的な参加を呼びかけた。 ③ アンケートによると、94%の生徒が積極的にあいさつできていた。		
	2① 部活動への積極的かつ継続的な参加を促す。 ② 部活動での活動を通して、所属感、連帯感を体感できる取り組みを工夫し、指導を行う。また、部活動生集会を通して、部活動間の競争意識を高め、学校全体の活性化に努める。	2① 部活動生集会や全校集会などで、部活動への積極的かつ継続的な参加を促す声かけを行った。アンケートによると、69%の生徒が部活動に意欲的に取り組んでいた。 ② 第1回部活動生集会では、部活動生の共通目標を掲げて、部活動生全員が所属感、連帯感をもてるように指導した。第2回では総体に向けての結束や創作活動への意欲向上を促した。第3・4回では、1・2年生の新チーム・新組織としての心構えを伝えた。部活動生集会が運営や活動の役に立ったと感じる顧問の先生は92%、生徒は60%であった。		
	1 校内人権の日に関するアンケートにおいて、「とても積極的に取り組めた」「まずまず積極的に取り組めた」と回答する割合が90%以上を目指す。	1 「とても積極的に取り組めた」「まずまず積極的に取り組めた」と回答した割合 93.9%		
	2 1月に実施される人権問題意識調査において、人権問題解消に向けての意欲が、4月比4%以上向上を目指す。	2 1月に実施される人権問題意識調査において、人権問題解消に向けての意欲が、4月比1.0%減少		
	3 1月に実施される人権問題意識調査において、校内での人権学習に「積極的に参加した」「やや積極的に参加した」と回答する割合が60%以上をめざす。	3 「積極的に参加した」「やや積極的に参加した」と回答した割合 50.7%		
6	4 1月に実施される人権問題意識調査において、「学校で学習した人権問題を話題として、家庭で人権問題について話したことがある」と回答する割合が50%以上を目指す。	4 1月に実施した人権問題意識調査において、「学校で学習した人権問題を話題として、家庭で人権問題について話したことがある」と回答した割合 16.2%		
	活動計画 1 月1回「人権の日」を設け、人権委員を中心として、身近な人権問題を中心とした人権問題学習を実施する。 2 年間2回(4月・1月)、人権問題意識調査を実施し、生徒の意識の変化を分析する。 3 HRでの人権問題学習や人権に関するさまざまな校内行事において、生徒の関心や実情に合わせ	活動計画の実施状況 1 生徒が司会・進行を務め、計画通り実施できた。 2 計画通り実施できた。 3 人権HR活動は各学年ともに年間5回、計画通り実施した。5月21日には人権教育映画鑑賞会を実施し、いじめ		
	1 月1回「人権の日」を設け、人権委員を中心として、身近な人権問題を中心とした人権問題学習を実施する。	1 生徒が司会・進行を務め、計画通り実施できた。		
	2 年間2回(4月・1月)、人権問題意識調査を実施し、生徒の意識の変化を分析する。	2 計画通り実施できた。		
3 HRでの人権問題学習や人権に関するさまざまな校内行事において、生徒の関心や実情に合わせ	3 人権HR活動は各学年ともに年間5回、計画通り実施した。5月21日には人権教育映画鑑賞会を実施し、いじめ			
			総合評価 C (所見) 評価指標については、知識の定着とともに家族との共有を図る必要がある。人権委員の生徒は、校内人権の日の司会・進行や校内行事の運営に積極的に取り組んでいた。人権教育映画鑑賞会・人権啓発展への保護者参加数が少なく、また保護者と人権問題について話し合う生徒が少ないことが、活動を通して浮かびあがった。	○ 生徒の人権意識の高揚や人権感覚の育成を図るために、人権委員会やヒューマンライツ部の生徒が主体的に活動する機会を増やす。 ○ 保護者と連携して生徒の人権教育を実施するためにも、人権問題講演会や人権教育映画鑑賞会は生徒・保護者の興味・関心に合うものを精選する。 ○ 人権問題解消に向けて、人権問題を自分の問題として、自ら考え行動できる生徒を育てるために、身近で具体的な事例を取り上げる。

	<p>た内容を実施する。</p> <p>4 人権啓発新聞『Together』を家庭で読んでもらうことができるように、人権委員やヒューマンライツ部を中心とした広報活動を行う。</p>	<p>問題をテーマにした『青い鳥』を鑑賞した。</p> <p>4 人権HR活動などの内容や感想を掲載し、年間4回発行して家庭に送付した。華の丘祭（文化の部）で人権啓発展を実施し、活動報告や『Together』を展示した。</p>		
--	--	--	--	--